

保育者養成の一方法として

グリーンボードによる製作活動

武井幸子



近年、幼児教育の重要性が認識され、幼児教育に対する要求と期待は、年々高まっていく傾向にある。こうした状況において、

幼児教育に直接あたる保育者の資質向上が要望されることは、当然の帰結といわねばならない。したがって、保育者養成機関における責任もまた極めて重大であることが痛感されるのである。

いうまでもなく、保育者養成機関における教育は、理論と実践の両面について、多角的に指導されるべきである。こうした教育の一環として、過去数年にわたり試みてきたグリーンボードの製作を紹介したい。

グリーンボードの製作にあたっては、われわれが北海道の幼児を保育することをたてまへとする立場から、北海道の独自性、すなわち、気候、風土などの自然的条件および経済的、社会的諸条件を考慮し、幼児をとりまく諸環境についての十分な理解が要求さ

れる。このことはグリーンボード製作には附属幼稚園の年間の保育計画が熟慮されることと相まって、グリーンボードの表現する各月の内容と密接な関連をもつものである。

幼児指導の現場において、近年盛んに「創造性のある幼児を育てる」ということが強調されている。この製作をおして、まず保育者の創造性を育成することもまたその目的の一つである。つまり、素材体験を十分にさせ、素材を創意的に使用させるといふ観点から、日常生活の中で造り出される身近な廃物が、できるだけ利用されることになっている。われわれが幼児の生活を観察するとき、おとなの観点からはとれない廃物も、幼児の世界では、たくみに創造物にかえられ、彼らの貴重な遊具、教材となっている。したがってこの種の廃物を利用することによって幼児の素材に対する関心を保育者自身もまた同一次元において体験す

ることになる。これらの素材の使用は経済的にも利点があり、時間さえかけ、また範囲を広めれば収集が容易であって、質量共に、ある程度無制限にあることも特徴である。

グリーンボードの製作は第二学年生に限定されている。実は、本学では第二学年目のカリキュラムに、「総合保育」の科目があり、グリーンボードの製作は、この「総合保育」に包括されて実施されている。この科目は後期における市内および地方の各園における「教育実習」前に、附属幼稚園児に対する保育実習の部分参加のかたちで行なわれるものである。幼児の年齢別の「組分け保育」と園児全員を扱う「一斉保育」の実際的指導を学生が経験し、それに伴い毎回の反省、批評、評価と講義が並行的に行なわれている。第一学年においてすでに習得した一般教養科目、専門科目の総合的知識を基礎に、絵画製作と技術の実際的应用が試みられるのである。この体験が、来たるべき「教育実習」に、また就職後の現場の保育において有効に活用されることが期待される。

人間関係の点から、製作担当の組分けは、むしろ交友関係の親密でないもの同士を組合せ、共同と協調とを体験させて、円滑な人間関係を形成する上での関心を高めさせるように配慮している。

学生のグループ製作活動の結果は、学生自らが検討し、評価するよう指導され、学生相互の研究意欲がより一層旺盛になることを意図されている。

△製作段階(一)▽

第一学年の前期末、一年生全員にグリーンボード製作について次のような条件が提示される。

製作条件

(1) 北海道の保育、仏教保育(必ずしも強調しない)の観点より製作する。

(注) 仏教保育とあるのはわれわれの大学が仏教の精神によって創立されているところから、学校の要望を入れたものである。

(2) できるだけ身近な廃物廃品の創意工夫をはかり、最低費用で製作すること。

(注) グリーンボード製作にあたって、大学から鋏、鋸(大、小)、釘ぬき、ピンセット、糊ばけ、筆などを貸与し、ポスターカラー、糊、ビニールテープ(またはセロテープ)などは支給するが、これら以外に使用する場合は学生が自己負担することになる。

(3) 前述の(2)を前提とするほかは製作素材に対する質的、量的制限を加えない。したがって、製作活動を自由に、かつ素材体験を豊富にもつこと。

(4) ボードは大学が貸与するもの(縦1.82m×横1.82m、バックはうす緑色)を使用し、作業は学内の所定の場所に限定する。

〔注〕ボードは保存可能な耐久的なベニア板であつて、さらに移動を容易にするため中央で二枚折となるよう工夫されている。

ボードの数は入園の四月より卒園の三月までの各月一枚宛、計十二枚である。製作条件を均等にするため、一様にサイズ、色などを同一にしてある。ただし画面自体のバックの色を制限することはない。

製作を所定の場所で行なうのは、製作過程中、素材の融通、アイデアの交換、素材の使用法など製作技術の検討を容易にできる
よう考慮したからである。

△製作段階(Ⅰ)▽

大学入学当初大多数が未知であつたであろう学生も、第一学年前期末頃には、大学生活にもなれ、交友関係も大体定まつてくる。しかし、第二学年にいたつても、第一学年からの同一交友関係のみに止まり、同じクラスの者同士でも、ほとんど言葉をかかわしたこともないという者たちがいる。しかもこうした狭い交友関係においてさえ、それが相互理解に基づくとは限らない。ここにも「孤独なる群衆」が見出されるのである。そこで第一学年前期後半、学生の交友関係を調査し、ソシオグラムを作成し、交友関係の浅いもの同士の組合せを選定する。一クラス大体五〇名く六〇名を、一グループ四名く五名の十二組に分け、一月から十二月ま

での担当月を割り当てる。ただし本年から十三組に分け、第十三組は年間の月割の連関テーマに制約されることなく、いわゆる自由テーマのもとに、製作を担当する。さらに規定のボードを使用せず、廊下のより広い壁面(縦2m×横3m)を利用させた。

組分けをされた学生は、各自の担当の月によって、テーマ、構図などの立案検討にとりかかり、約一か月半の間に決定しなければならぬ。いうまでもなく、この間学生は、指導教官および美術科教官の指導と援助の下で参考資料の調査、収集、討論を行なうことになる。

一応テーマ、構図などの決定結果を指導教官に提出し、ついで本格的に素材の収集を開始するわけである。すでにこの段階までに牛乳びんのふた、キャラメルのおき箱、チョコレートのおみ紙や内部の金、銀紙、包装紙などを収集しているのが普通であつて、さらに具体的な案にしたがつて、所要素材の収集が進められる。各組相互間の素材の交換、収集の協力が適宜行なわれ、製作段階にいたる期間を専ら素材集めに専念することになる。

△製作段階(Ⅱ)▽

第二学年に進級した学生は、五月中旬から五月末日までの約二週間に製作を完了する。この時期を選択するのは、前述したように、「総合保育」が第二学年に開始され、グリーンボード製作はそ



42年度作品 7月「たなばた」

材料 古ストッキング、色紙、ダンボール、古布、紙粘土、はしぎれ、セロファン



42年度作品 5月「鯉のぼり」

材料 包装紙、卵の殻、古ストッキング、包装紐、チョコレートの包み紙、古ソックス、週刊紙のグラビア、はしぎれ、新聞紙

の一環として、考慮されていることである。なお例年実施される

十月の市内および地方の各園における教育実習までに、グリーンボードの製作経験をもたせ、学生各自の実習準備計画を促進させるなどの理由による。さらに他の理由として、所定の製作場所には

暖房設備がないため、北海道のような寒冷地は、十月以降翌年四月までは、作業が能率的に運ばれないのである。

製作には、休講時間はもちろん、休憩、終業後の課外の時間も可能な限りあてるわけであるが、實際上各グループ全員揃って製作することは必ずしも容易ではない。にもかかわらず、学生の協調、協力のいかんが作品結果として端的にあらわれ、批評会において反省がなされることになる。

製作完成時には、月名、テーマ、製作者氏名、素材の種類などはボードに貼付される。学内展示に際しては、附属幼稚園教師や園児たちの観覧が恒例となっている。展示期間は夏季休暇終了時までである。この間例年実施される北海道主催の幼稚園教諭単位取得夏季講習会が当大学を会場とするところから、道内各地より集まる現職教師たちの参観をおおぐことにしている。

△製作品の検討、評価▽

作品完成展示後、指導教官、第二学年の製作学生および第一学年の学生を含め、反省会を開く。製作者の学生たちは、各グループ



42年度作品 10月「稲かり」

材料 はしぎれ、包装紙、古綿、わら、牛乳びんのふた、ダンボール

ごとに、作品の相互批評を行なうほか、テーマの選択理由、内容および素材の説明、苦心談、後輩へのアドバイス、自己反省がなされた後、第一学年生との質疑応答が行なわれる。指導教官は作品の成果を検討、評価し、さらに今後に対する意見を総括する。この反省会には、美術科教官も列席し、専門分野からの批評、評価が行なわれる。

△製作作品の一例▽

毎年学生製の製作のテーマ、内容が異なるがそれにしたがって、素材の種類、製作技術なども多種多様である。本紙には昭和四十一年度の作品のみを紹介し、参考に供したい。(写真は四十二年度)

7 月	6 月	5 月	4 月	月
水あそび	時計さん ありがとう	金太郎	今日から 幼稚園	テーマ
大きな木の枝に小鳥が三羽ならんでいる。木の下の水槽には犬が水を運んでおり、猫はそれを見物している。	大きな時計の左右に、ハタキ、雑布などをもった豚、猿、キリンにまたがった兎などが、時計の大掃除をしている。	水しぶぎの中を大きな鯉に金太郎と熊がまたがり、滝をのぼっている風景。	幼稚園を背景に、一方に桜の木と他方に庭を配した幼稚園の道を、男女二人の園児が登園(帰宅)の情景。	内容
包装紙、ボール紙、ビニール、はしぎれ、パンパス(いけ花の材料)、新聞紙、ボタ	ボール紙、はしぎれ、ボール紙、ボタン、古綿。	うす皮、包装紙、紙ひも、牛乳びんの蓋、麻ひも、花の種子、卵の殻、くず毛糸、鉛筆の削屑、チョコレートの包み紙、はしぎれ、ボール紙、ボタン、古綿。	古ストッキング、チョコレートの包み紙、古布、色紙、包装紙、くず毛糸。	素材

11 月	10 月	9 月	8 月	
お山の度 冬仕	お山の 大根洗い	楽しい遠足	海水浴	
熊、狸、猿、りす、兎が冬ごもりの仕度をしている。熊と狸は穴を掘り、りす、兎は木の実を集めている。	冬にそなえて漬物用の大根洗いをしている北海道の十月の代表的風景の一場面、兎が泥のついた大根を運び割烹着姿の熊がそれを洗い、猿は縄で大根をしぼって木の上から吊して干している。	熊、象、豚、犬、りす、兎など輪になって芝生にすわり、おやつを食べている遠足風景。	男女の子どもが、広い海を背景に、岩の上や水中で海の獲物をとっている。	る。水槽の中では家と猿が水遊びに興じている。
包装紙、ボール紙、古布、ボタン、チョコレートの包み紙、銀紙。	はしぎれ、小包ひも、木の皮、ボタン、落葉、縄。	セロファン、バッグ、はしぎれ、木の皮、キャラメル、あき箱、チョコレートの包み紙。	古ストックキング、週刊誌の表紙、グラビア、くずぎれ、紙粘土、新聞紙、チョコレートの包み紙。	ン。

3 月	2 月	1 月	12 月
ひなまつり	豆まき	かるた会	冬のあそび
動物のひなまつり風景、熊の内裡びな、兎の三人官女、猿の五人雛子、菱餅などが壇上にならんでいる。二匹のねずみが菱餅を持ち出そうとしている。豚と馬はお客さまで白酒をのんでいる。	星の光る夜、三人の子どもに豆をぶつけられ逃げ出している赤鬼。いかにも節分といった風景。	晴着姿の女の子と男の子のかるたの場面。みかんをすすめている女の子、頬杖をついてかるたのりを眺める小さい子、かるたをすすめる子どもたちの動作、表情が強調的に表現されている。	三人の子どもたちがシャベールを持ったり、また素手で大きな雪だるまをつくっている。北国ならではの風景。
マツチの軸、色紙、はしぎれ、スポンジの屑、ボタン、チョコレートの包み紙、金、銀紙。	スポンジの屑、包装紙、はしぎれ、チョコレートの包み紙、古ストックキング。	あざり貝、卵の殻、くず毛糸、古ストックキング、はしぎれ、みかんの皮、包装紙、ボール盤用紙ひも。	包装紙、チョコレートの包み紙、銀紙、古ストックキング、はしぎれ、古毛糸、スポンジの屑。

へまとも

グリーンボード製作は、よき保育者の養成を意図とする教育活動の一環として実施されてきた。

私立幼稚園数が圧倒的に多いわが国の現状では、財政的に各国の状況が異なり、したがって園舎、設備などの物的環境に格差が生じるのは当然である。こうした状況の下で、しばしば、建物、設備などの外観からする形態の評価が、ともすると「よい幼稚園」という保育の内容の評価と混同されるきらいがある。こうした混同は、学生もまた陥りやすい誤りの一つでもある。物的環境の必要性もさることながら、それにもられる心的環境の重要性もまた強調されるべきである。特に、保育者自身の心がまえは、保育の質的水準を左右する心的環境の重要な因子であり、しばしばそれが幼稚園自体の評価の対象にもなることは周知の通りである。望ましい保育というものが、幼児と教師との人間関係にあると同時に、保育者相互間の人間関係につながる問題でもある。実際の職場における現実と直面しない学生には、ともするとすべてが満たされ理想的環境を将来の職場として考えがちである。グリーンボードの製作活動は、ともかく与えられた物的、人間的条件の中で、現時において要請される保育を、能う限り十分に実現するという基本的な心がまえや態度を訓練することにもなる。うま

でもなく、この製作活動を通して体験した人間相互の理解と協調は、将来現場に立つものに対する一つの教育段階として有意義であることを念願している。

素材の多面的な収集とその創意工夫的使用の実験は、すでにふれた通り、単に日常生活の中で廃棄あるいは焼却されるであろう廃物の利用による経済観念の育成に止まるのではなく、むしろ外見のよき、便利さから、とかく既成の商品的遊具、教材に依存しがちな傾向を反省させ、広範囲にわたる教材、教具、遊具の活用と指導方法などが保育者の創造性によって開発される可能性を重視したのである。(札幌大谷短期大学)

倉橋惣三選集第四巻 発売中

定価 700 円 フレーベル館発行

内 容

- ☆保 育 案
- ☆短 言…・子どものための人形
・窓・この秋 他
- ☆戦 中 小 篇…・保姆諸君と語る
・おもちゃ大学 他
- ☆戦 後 小 篇…・小問答「とんでもない」
・保育の味 他
- ☆論 説…・彼らもまた美を求む
・幼稚園の新使命 他
- ☆実 際 篇…・系統的保育案解説
・幼稚園でしていること 他
- ☆初期の著作…・新しき心 他
- ☆作詞・書簡・揮毫
- ☆あとがき

第 1, 2, 3 巻 (各 700 円) も増刷発売中